

2016 年度活動報告 CJP 授業：口頭表現 C

蔭山 拓（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

初級前半から後半の学習者対象で、週1コマのクラス（学生数23名）である。クラスの目標は、①身の回りのことについて、初級レベルの表現を使って口頭で表現することができるようになる、②一人で話すだけでなく、他の人とのやりとりの中でも話せるようになる、である。使用教材は、『NEJ』Vol.1（くろしお出版）で、その学習進度及び範囲は、基本的に一回の授業につき1課ずつ11課まで学習し（3課のみ2コマで学習、7課は省略）、最後の2コマを期末試験（口頭発表と質疑応答）とした。

2. 授業内容

各課の活動内容は、①ナラティブの理解（クラス）、②ナラティブの朗唱練習とQ&A練習（クラス・ピアワーク）、③エッセイの作成（宿題）、④ナラティブの朗唱チェック、⑤エッセイのフィードバックと朗唱練習（個別）、⑥エッセイの読み聞かせ合い（ピアワーク）を一つのユニットとして実施した。実際のスケジュールとしては、前課の④～⑥と次課の①～③までを1コマの授業内で行った。また、評価項目としては、朗唱チェック、エッセイの提出および内容、期末発表ならびに平常点（参加）とした。

そして、本クラスが今期から開講する新たなクラスであることから、以上のようなクラス条件や学習活動について学習者が不安や疑問を感じることなく学習に取り組むことができるように、開講時ならびに学期を通じて適宜学習者に対して本クラスにおける各学習活動のねらいやその背景にある言語習得および教育の原理について説明をするよう心掛けた。また、本クラスの諸条件を鑑み定期試験は期末試験のみとし、その形式・内容については、学期中に書いたエッセイ（全11作品）を編集し直したものを各自口頭で発表しその内容について学習者同士による質疑応答を行った。

3. 成果と今後の課題

学期を通じて大方の学習者は熱心かつ積極的に学習に取り組んでいた。また期末アンケートにおける学習者によるクラス評価も概ね良かった。ただ、クラス内のレベル差も大きくまた人数が多かったことから、一方ではクラス全体に対する指示・指導について絞り込む必要があり、また一方ではエッセイやピアワーク等における学習者個別のフィードバック・援助について十分に行えないことも多く、そういった点については数名の学習者から改善を求める意見があった。